

# あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.  
74

2021 睦月・如月

## 謹賀新年

「半ばは自己」の幸せを、半ばは他人ひとの幸せを」  
日々修行を積み重ね、仲間とともに一歩一歩  
理想境へと歩んでいきましよう。  
幸多き一年となるよう、皆様のご活躍を  
祈念いたします。

金剛禅総本山少林寺管長 大澤 隆

特集／新春鼎談2021

リノベーションと次世代が  
生き生きと活躍する組織

# 新春鼎談 2021

## リノベーションと次世代が生き生きと活躍する組織

2021年を迎えるにあたり、そうこうま宗昂馬少林寺拳法師家・少林寺拳法グループ代表、おまわらたかし大澤隆金剛禅総本山少林寺管長、かわしまかずひろ川島一浩一般財団法人少林寺拳法連盟会長に、ていだん少林寺拳法の未来について鼎談していただいた。

### 2020年を

### 振り返って

代表 新型コロナウイルスとは切っても切れない一年でした。しかし、苦しい中でも未来に踏み出すよい起点になったと思います。少林寺拳法の活動は、社会の状況や方向性を熟

考して判断し、行動することに意義があることを明確に理解できたのではないのでしょうか。また、オンライン化、インターネット技術を活用した布教に関しても、一歩踏み出すことができました。コロナ禍がなければ現在のようには対応できていなかったと思います。



宗昂馬少林寺拳法グループ代表

管長 師家承継を滞りなく終え、さあいいよいよというところで、コロナ禍によりさまざまなことを断念せざるをえませんでしたが。金剛禅の門信徒は、節目節目の儀式や行事を通じて修行の進捗を確認、反省し、新たな目標を定めたりしながら前に進んでいくのですが、それができず立ち止まって

しまった方もいたと思います。しかし、全国の道院長の皆さんや道院幹部の皆さんも「活動を自粛しているだけではだめだ」と気づき、「もっとやれることがあるはず」と行動に移されました。そして、直面した状況を克服し、仲間の気持ちをつないでくれました。

会長 少林寺拳法の拳士の罹患率は全国平均よりかなり低いようです。感染しないよう、我慢し、努力し、工夫ができていたからだと思います。それは、日頃の修練の成果でもあり、教えの実践ができていていることの表れですね。

### リノベーション

### 金剛禅を社会に

代表 リフォームとは新築の状態に戻すこと、リノベーションとは作り

直すことで、もともとあった性能以上の機能を持たせるという意味ですが、少林寺拳法には今、リノベーションが必要だと感じています。コロナの影響で急激に社会が変化しました。コロナ禍が沈静化しても、もう元には戻りません。既存の制度や運用をゼロベースから考え直さないといけません。以前は少林寺拳法の指導をしていることで、おのずと地域に存在感や影響力を発揮することができました。しかし、今はそのことを積極的に発信しなければ、影響力のある存在にはなれない時代になりました。それゆえに、これからは金剛禅が本来の教えの部分をどれだけ社会に発信し、受け入れられるようにしていけるかが鍵になってきます。そこで、道院長には一人一人がこの時代のイン



フルエンサー(世間を与える影響が大きい人)になっていただきたい。  
**管長** 道院の修行をオープンにする。具体的には、動画や画像を使って道院の様子や雰囲気、楽しんでいる姿を積極的に発信することが大切です。都道府県教区でもウェブサイトを作成し、ブログを使って活動の様子を意欲的に紹介している道院では実際に拳士が増えていきます。自信を持って発信し続けていると、活動の理解者が広がっていく。楽しそうにやっていたら人は集まる。気づいたら地域の人も大勢が道院の仲間になっていった、というようになるはず。道院には、技そのものを楽しむ魅力があります。しかし、そ

れだけではなく、多くのことを学ぶ修行の場であり、さまざまな思いで集うことのできる、堅苦しさもない自由なところ。す。  
**会長** 道院は楽しいところ。老若男女がいて生活に密着していたし、子どもたちとキャンプをしたり、合宿をしたりと、必ずしも少林寺拳法ばかりではありません。また、健康プログラムも大いに活用することで、さらに楽しめる人の幅が広がります。  
**代表** まったく新しいものを作るのではなく、すでに持っているものを伝えていけることは大きな強みです。しかし、今の時代のスピード感に合わせて取り組んでいくことが課題です。

**管長** 道院の中だけではなく、一歩外へ出て、まだ関係を持っていない人たちに広げていく必要もあります。グループで一丸となり、受け皿を作っていくことが必要です。

### 壁を壊す

#### ◆法人の壁

**会長** 今はまだまだ一丸となれていないように感

じます。自ら壁を作っているのではないのでしょうか。今まであった魅力がそれによって失われています。オンラインアンス上の法人の区別は必要ですが、壁があってはいけない。  
**管長** 少林寺拳法は世界で一つです。法人間で交流を深め、協力するのは何の問題もありません。交流する中で、少林寺拳法連盟や他国の拳士にも自然に金剛禪が伝わっていいばよい。そうすれば、より多くの拳士が「少林寺拳法っていいね」と感じるようになると思います。

**代表** グループ内にバラバラ感があつてはいけません。少林寺拳法という中に各法人が収まり、調和している姿が必要です。法的にはしっかりと区別された運営をしつつも、一体感がある組織である必要があります。

#### ◆道院長になるための壁

**会長** 以前は、「目指せ、道院長」と言うと、「よし、頑張ってみよう」とプラスのイメージでした。しかし今は、「道院長つて大変」となっている気がします。

**代表** 道院長には責任がありますので、多くのことをできるようにしたいと、全部できるようになって初めて

「道院長になりました」では、皆さん結構な年齢になってしまいます。最初はこれさえできていけばよいという最低限のルールにすれば、なりやすくなる。できないことは助け合えばいいのではないのでしょうか。

**会長** 参与道院長制度も積極的に活用したらよいと思います。指導者が1人では限界があります。複数指導体制で、指導者が日替わりになってもよいと思います。

**管長** 本場に必要ないことをしっかりと押さえ、ある程度は緩みを持たせて制度をつくっていく必要があります。かつての道院長が認証された時代と、現在は状況が大きく異なります。これから道院長を目指す人の背中を押せるようにしていきます。

#### ◆世代の壁

**会長** ある程度苦勞する前提で、若い人たちに任せればよいと思いません。若い人たちは失敗できるので。失敗してもへこたれず乗り越えたならば、その中で学ぶことができます。また、そのときに助けってもらったことに対する恩義も生まれてきます。少林寺拳法の人間関係は、そうして受け継いできましたね。

**管長** ベテラン道院長が若い人たち



を意識して引き立てないと、前に出ていきづらいのではないでしょう。若い人たちに任せつつも、培った経験や技で脇を固めてあげる。中には、後進を信頼し、「君たちに安心して任せられる」と先頭を譲り、温かく見守る道院長もいます。上に立つ人の度量によります。若い人が少なくなると、道院運営も苦しくなってしまう。

### 次世代・若者

代表 大先輩方の青春時代の少林寺拳法と、今の若い方たちの少林寺拳法は違ってきています。どちらが正しいということではなく、どちらも存在しているんです。ただ将来、少林寺拳法が発展するためには、これからの時代に合った少林寺拳法が主

流になるべきです。先輩方の若かりしころのことは大切にしながら、時代の変化に適応して柔軟に変わっていく少林寺拳法を楽しんでほしい。「昔と違うから辞めた」というのは寂しいですね。

会長 若い人たちもすごいですよ。英知というか、発想、行動力がずば

らしい。11月にはコロナ禍にあったものを、仲間と協力して全日本学生大会を成功させました。その後も感染報告はありません。日常生活や活動においても制限がある中、ふだんから使いこなしているSNSを活用し、工夫しています。

### 一歩前に

代表 社会や組織が変わっても、変わらないものは人間的な関係です。少林寺拳法の拳士の関係は、道衣を着ているから仲間なのではありません。少林寺拳法の教えがベースにあり、教えに沿い、主体性を持って生きていく人が輝いて、そんな人たちがつながった姿が少林寺拳法です。グループで一丸となり、力を合わせて広げていきましょう。

管長 次世代を担う指導者たちも、積極的にネットワークをつくり、輪を広げようと頑張っていますね。

代表 私の役目は、世界中の若い人たちと一緒に走って、先輩方との橋渡しをすることだと思っています。若い道院長は、先生(師)から「任せたぞ」「頼んだぞ」と言われて頑張っている人が多い。ならば、その架

管長 私たちは、因果と縁起の法則の中で活動しています。すべての現象はダーマの働き、さまざまな関わりにより現れています。人を育てることも、道院を発展させることも、社会をよくすることも、私たち一人一人が金剛禅の教えに沿って生きる

ことだと思っています。それが実現するよう本山としても取り組んでいきます

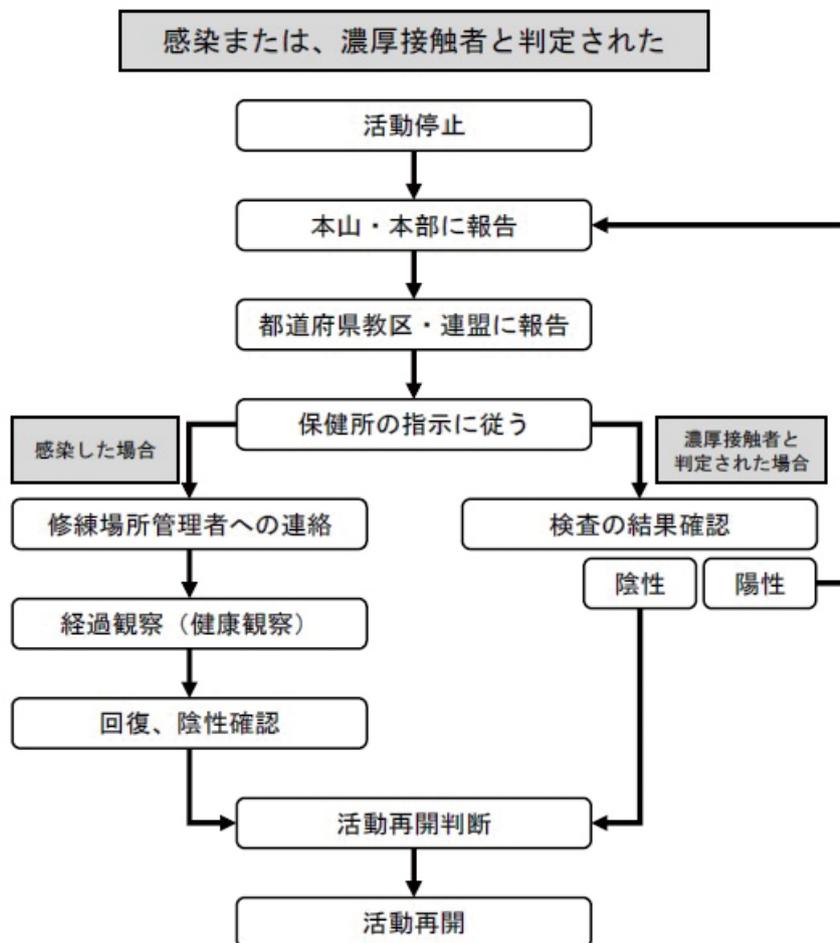


す。拳士の皆さんも、自分の可能性を信じて前に進んでいってもらいたいと願っています。

代表 社会がどのように変化しようと、人のあるべき姿、人間性の部分は何千年もの間変わっていませんし、これからも変わらないでしょう。開祖・宗道臣は、人としての正しい姿や考え方を私たちに伝えようとしてきました。その思いを受け取った私たちが次の人に伝えていくことが、活動の原点です。共に力を合わせて、社会によい発信をする一年にしましょう。

# もし、感染者や濃厚接触者が発生したら!?

●感染または、濃厚接触者と判定された場合の対処フロー



国内の新型コロナウイルス感染は第三波の状況にあり、感染者が急増しております。本山・本部にも「拳士が感染した」「家族・職場の同僚が感染した」という報告が届いております。改めて感染者や濃厚接触者が道院内に発生した場合の対応を確認し、万が一のとき、適切な対応ができるよう準備をしておきましょう。

## 引き続き最大限の感染防止対策を徹底しましょう！

※詳細は、下記を参照してください。

少林寺拳法グループ  
新型コロナウイルス感染拡大防止について



万が一の感染者発生時の  
対応に関するガイドライン





## 開祖語録 ダイジェスト

1979年2月  
定例道院長会・武専



「構造不況を脱して」なる言葉が今盛んに使われているが、景気回復なんて嘘で、もっともっと不景気になると私は見ている。日本は労賃が高いから、賃金の安いところに進出し、はつきりいえば他国の労働者を搾取る形で不況を乗り越えようというんでしょう。外国に工場を造る日本の企業が最近増えています。そんな状態の中で、われわれ働く者が幸せになれると思うか。なれっこない。皆分かってはいるはず

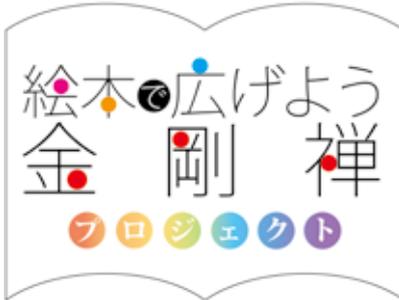
です。が、何もしないでいる。なぜだろう。政治の在り方や経済の仕組み、そんな問題は難しく、われわれ国民にはどうにもできない。俺たち庶民が考えたところでしようがないんじゃない人か大半だけど、この次に1銭5厘で取られるのは君らなのです。

すでに十分に少林寺拳法の教育を受けている君ら一人一人に、どうせい、こうせいという気はありません。自身の常識で判断すべきことである。でもだ、「今、将来、どうしたらいいのか。あなたは どう思います?」と聞かれ、いかげんにしか答えられないようでは情けない

# 信念を持って問いに答えられるかどうか

ぞ。明治・大正・昭和と生きてきた私は、問題や現象に敏感にならざるをえない。そして思うのは、左翼の押し付けも嫌だが戦争を美化するとき右翼はもっと危険だということです。

われわれは愛国なんてことをいうが、少林寺拳法のいうそれは異質なのです。国家民族の幸せを本当に考えるとは、極端な右だ左だということじゃない。日本人も幸せになりたい。でもお隣の国々も幸せになってほしい。それが実現に近づくようにするにはどうしたらいいか、ここを真剣に考えようとする人ではないか、ば、うちの指導者としてはふさわしくないのです。少林寺拳法を何のためにしているのか、その目的は何なのか、われわれがいう国を愛するとはどういうことなのか、人間完成というが、一体それはどういうことなのか、はつきりとした信念を持ってこうした問いに答えられるかどうか、実は今問題になってきている。しっかりとってほしいし、いろいろ難しいことも言ったので、分かんるところは自分で勉強し補うぐらゐの姿勢も期待します。



笠岡道院  
助教 川相 功

るため(泣)、事前にわが子で読み聞かせの練習をするほど、準備は念入りです。決して上手とはいえない読み聞かせですが、それでも子どもたちは「うわー」とか「えー」と、しっかりと反応してくれます。時には、内容にツッコミを入れてくる子もいます。そのため、こちらますます熱が入ります。もっと伝えたい、盛り上げたい、楽しい。修練のときとは一味違う「調和」や「自他共楽」を感じられると思います。

## 準備は念入りに

笠岡道院では、絵本の読み聞かせに取り組んでいます。季節や行事に応じてふさわしい絵本を図書館で選ぶと思いますが、たくさんあって迷ってしまいます。でも実は、童心に戻って選ぶ過程がいちばん楽しかったりします。絵本は当日までに読み込んで、ある程度の内容を頭に入れてあります。読み聞かせは普通の姿勢とは違い、子どもたちに向けて絵本を開き、読み手は横から読むため、文字が読みづらいのです。また絵本によって、文字の位置や大きさがさまざまですし、さらに老眼もあ

### 最近読んだお薦めの絵本

#### ◎パパ、お月さまとって!

著者: エリック・カール

訳: もりひさし

出版社: 偕成社



ある晩、モニカは、お月さまがとても近くに見えて、お月さまと遊びたいくなりました。お月さまの方へ手をいっぱい伸ばしてみますが、手が届きません。そこで、モニカは言います。「パパ、お月さまとって!」。そこでパパは……。娘の願いに無難に応えようとするお父さんの愛を感じる作品です。

## 反復修練の効用

### ——易筋行に関する一考察——

本山で毎朝行われている参禅会(職員有志による易筋行・鎮魂行)に準じ、道院でも参禅会を行っています。そこでの体験を基に易筋行について考察します。

参禅会の修練では、剛法・柔法各3技を指定し、攻者に連続で攻撃を仕掛けてもらい、守者は防御・反撃を行います。攻守交代しながら左右を行い、さらに相手を替えながら一定時間それを繰り返します。「技を掛けているときは、掛けられているほうの感覚を想像しながらやりなさい」との先達の指導を思い出し、相手の身体を思いやりながら進めます。途中で教え合うことや立ち止まることなく、みんなで黙々と反復します。

繰り返しに呼吸が合ってきて、相手との一体感が生まれ、「私」という感覚が薄まってきます。意識が集中し、三昧、調和した状態なのでしょう、とても心地よく、そうなるのとあつという間に時間が過ぎます。

しかし、途中、時々「私」が表れて、「反撃を強く極めてやろう」「うまく投げてやろう」など自分本位の思いが生じると、意図的な動きや強引な動きになり、相手との一体感は乱れます。

この修練のよいところは、身体の<sup>はたら</sup>き<sup>ごと</sup>としては、攻者との一体感から、意図しなかつた攻撃への防御や別の技への変化などの対応がしやすくなることです。また、技を掛けたり、掛けられたりしているとき、同時に相手の感覚を感じ取れるので、無理のない最適動線を取りやすくなることです。そして、<sup>こころ</sup>のはたらき<sup>ごと</sup>としては、この相手との

一体感は「少林寺拳法教範」で開祖が述べられている<sup>こころ</sup>魂<sup>たましい</sup>魂<sup>たましい</sup>のはたらき<sup>ごと</sup>にもよい影響があると思われまふ。「教範」には、「精神修養と云うのは、自我即ち己の<sup>こころ</sup>魂<sup>たましい</sup>を修め、靈性である<sup>たましい</sup>魂<sup>たましい</sup>を養って、人が<sup>こころ</sup>靈<sup>たましい</sup>止<sup>とど</sup>としての働きを全うするように修行することを云っている」と述べられています。魂は、「自我、即ち本能的な意欲や情動をおこす心」とあります。「私」という感覚が薄まることで、自分本位のもの<sup>もの</sup>の見方<sup>みかた</sup>や行動<sup>こうどう</sup>が抑えられるとしたら、「<sup>こころ</sup>魂<sup>たましい</sup>(自我の心)を修める」ことにつながり、また相手と調和して繰り返される心地よい修練は、「<sup>こころ</sup>魂<sup>たましい</sup>を養う」ことにもつながると思われまふ。精神修養にも有効な修練の在り方です。ところが、近年の昇格考試を見ると、明らかに反復修練が足りないと感じることがあり

ます。これは多くの考試員からも聞かれる声です。

反復修練は、健康増進にとつても必要です。ところが、技を掛けることにこだわりすぎて、無理な動きや強引さから身体を痛めた<sup>り</sup>して、健康に反することになっていないでしょうか。そして、修練が護身や練胆につながっているでしょうか。技術的な自信が平常心につながり、胆力の養成につながるからその<sup>こころ</sup>護身<sup>ごしん</sup>練胆<sup>れんたん</sup>です。折に触れて、みずからの修練を振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

開祖は法話において、「うちがいう易筋行の『易』とは、中国でいう『変化』の『変』、『改める』の『改』、つまり『身体を変え、心、考え方を変える』、それがわれわれのいう『易』です」と述べられています。身体と心をよりよく変える易筋行であるためにも、調和の取れた反復修練は効果的です。もしふだんの修練が、技法の確認や研究ばかりに偏り、反復修練が少なくなっているのであれば残念なことです。

ぜひ、行としての観点から、反復修練を改めて見直してみられることをお勧めします。

道院長

vol.56

## 元気の素



大阪府・大阪狭山道院  
道院長 山崎武宏 (46歳)

## 少林寺拳法を絶やしてはならない

前任の道院長が引退を決議された際、地元で40年近く続いた少林寺拳法を絶やしてはならないと思い、道院長交代を決意しました。当時は遠方に住んでいたこともあり、代務の期間に、地元で道場兼自宅を建設しました。交代当初は、仕事も忙しい時期でしたが、長く一緒に修練してきた幹部拳士の協力を得て、指導体制を確立しました。

## 「仲間を大切に」をモットーに

拳士が将来社会に出たときに、「少林寺拳法をやっていてよかった」と思えるように、自信と勇気と行動力を少しでも身につけられるように、と考えて指導に当たっています。

日々の修練では、易筋筋法の成果を確認するため、一般財団法人少林寺拳法連盟が主催する大会・行事での演武発表も身近な目標として設定していますが、その先には、「目標に向かって、精いっぱい努力をすることの大切さ」や「己の背中を見て後輩は育つ」という考え方を、肌で感じてもらえるようになることを真の目標として指

導を行っています。

幹部拳士には、「自己確立」と「自他共楽」を認識・実践するために、自身の成長に向けた努力をしてもらいつつ、門信徒への指導では、一人一人が目の前の目標に向かって精いっぱい努力できるように、手分けして取り組んでもらうようにしています。

また、2年に一度は本山の帰山行事へ合宿として参加し、門信徒や保護者に発祥の地で金剛禅に直に触れ、一層の理解を深めてもらうようにしています。

現在、大阪狭山道院は50周年の節目を迎えており、いつか地域のすべての学校に門信徒がいるくらいに広めていきたいです。できれば、少林寺拳法連盟の活動である「中学校武道必修化」の一環で、中学校の正課クラブを設立して、幸福運動を進めていきたいとも考えています。

## 「生涯現役」として

少林寺拳法の指導者として、指導に集中し過ぎて拳士目線を失わないため、また、「生涯現役」を貫くために、所属拳士とともに大会での演武参加を続けています。

職場では、道院長になる以前から同僚や上司に少林寺拳法に関する話をするなどして、金剛禅の教義や道院活動に対する理解が得られるように意識しており、どうしても忙しくなる時期は、相互にサポートし合える関係づくりを心掛けてきました。

家庭では、子ども3人が全員拳士として参座していることもあり、少林寺拳法は家族にとって非常に大きな存在です。ただ、週末は幹部拳

士との打ち合わせ(少林寺拳法談議)で帰宅が遅くなることもあり、家族の困らんもさらに充実させていこうと考えています。

## まずは一歩踏み出して

道院長になると、拳士では味わえない「他人の成長が自分の成長につながる」という貴重な成長の機会が自然に得られます。

道場の確保や、仕事・家庭との両立も気になるところだとは思いますが、「生涯を懸けた長い人づくりの道」というものは、望んでもなかなか得られないことだと思えます。思い切っただけで始めてみると、意外とできてしまうものです。まずは一歩踏み出してはいかががでしょうか！



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

研究会・講習会(地方) —  
開催報告

- 本山公認教区講習会(派遣講師)
- 〔10月4日〕静岡県教区(湯浅裕二)
- 〔10月18日〕奈良県教区(井戸家正旺)
- 教区研修会
- 〔9月27日〕新潟県教区
- 〔10月4日〕新潟県教区
- 〔10月11日〕新潟県教区
- 〔10月17日〕東京都教区
- 小教区研修会
- 〔9月27日〕青森南部小教区
- 〔9月30日〕山形置賜小教区
- 〔10月4日〕大阪高槻・茨木小教区
- 〔10月5日〕奈良桜井小教区

清水袖師道院

達磨祭

10月9日、達磨祭<sup>だるまさい</sup>を執り行いました。コロナ感染防止対策を十分に行ったうえで進めました。法要では、「達磨はインドから中国へ禅と拳法を伝えた人です。伝えただけでなく、羅漢



練拳図に見られるように、中国とインドを交流させた人なのです。そのため達磨祭は、拳士と関係者が交流する場でなければいけません。感染対策のため距離を取りながら、楽しく、有意義な時間としましょう。また、達磨の教えは七転八起です。他人に過度な期待をせず、自分の可能性を信じて努力を続けると、努力はダーマの加護となつて表れます」と導師から法話がありました。その後は、単独基本体験、帯相撲、達磨落とし、賞品が出る達磨クイズと楽しい時間を過ごしました。この達磨祭で、OBの復帰者と新入門を得ることができました。これもダーマの加護と感じています。

静岡県教区  
(副道院長・小峰 悟)

金剛禅易筋行大会

11月15日、静岡県武道館にて、「2020年度静岡県教区



11ページ「一期一笑」もご覧ください

第4回金剛禅易筋行大会」を、13道院2支部、参加人数82名で開催しました。

公認講習会

10月4日、静岡県教区では第7回静岡県教区公認講習会を開催しました。

コロナ禍により規模を縮小しましたが、県下の門信徒60名が集い、久しぶりに道院の方々顔を合わせ、充実した一日となりました。

当日は、朝の検温やマスク着用、手指の消毒、換気などの感染対策を実施し、易筋行<sup>えつきんぎょう</sup>では「身体接触を伴わない修練法<sup>けんれんぽう</sup>」について研鑽<sup>けんざん</sup>しました。

「資格別グループ討議」では後継者育成問題や「門信徒減



少についてなどを議題としましたが、門信徒の「生の声」はとても貴重な意見も多く、事務局として取りまとめ、今後の道院運営の参考にしていただくべく、県下の道院長に配信いたしました。

また、受講生からのアンケートでは、「武専に入りたくなつた」もっと勉強しなければ」という前向きな感想ばかりで、とても満足度の高い講習会が、「ウイズコロナの新しい時代の講習会」として、無事成功裏に終わることができました。

(静岡県教区事務局長・藤森正和)  
浜松渡瀬道院

入門式

11月28日、今年4回目の「入門式」を挙行しました。ことはコロナ禍で休眠する拳士が多い中、新たに3名の拳士が道を求めて入門されました。

入門式の法話で毎回話すことがあります。「少林寺拳法でいちばん難しいことは何でしょう? それは教えの実践でも、技法の修得でもありません。長く続けることです。水統の秘訣は、「本人の意思、やる気、根気」です。これは「自己確立」です。しかし、どんなに金剛禅



(道院長 浅井昌典)

の教えに共感し、少林寺拳法の技法に魅力を感じても、道院の雰囲気が悪ければ、水統できません。道院全体が「同志相親しみ、相援<sup>あひまか</sup>け、相譲<sup>あひゆずり</sup>り」を実践していれば、水統することができず。これは「自他共業」です。道院長として、拳士が水統できる道院づくりをする。それはすなわち、少林寺拳法の目的「自己確立」「自他共業」を実践し続けることです。ウイズコロナの時代、ますます金剛禅の教えは社会に必要とされ、道院はコミュニティの場として注目されてくるでしょう。道院長として、すべての拳士が水統できる環境をつくり、これからも次世代の指導者育成に邁進<sup>まいしん</sup>していきます。

## 2020年9月度 認証

### ●設立

■2020年11月1日付

名古屋高蔵道院 石堂 昌稚

### ●交代

■2020年10月1日付

姫路白鷺道院 森本 栄治

■2020年11月1日付

伊達道院 宇田 善浩

三重久居道院 濱崎 哲也

南予伊方道院 高石 金次

### ●参与道院長

■2020年4月1日付

川西南道院 奥西 千秋

■2020年5月1日付

豊橋道院 石川 泰成

豊橋道院 田頭 裕子

■2020年9月1日付

本部道院 富田 雅志

■2020年10月1日付

姫路白鷺道院 伊澤 啓介

## 僧階昇任者

### 大導師

■2020年11月15日付

白戸 淳一(札幌栄道院)  
原田 雅文(旭川東道院)  
水野 盛(札幌円山道院)  
青木 賢隆(富良野光明寺道院)  
田村 文雄(旭川南道院)  
山内 智晴(上富良野道院)  
中川 景季(一関道院)  
小原 巧久(盛岡北道院)  
鈴木 直子(仙台西道院)  
後藤 学(山形いずみ道院)  
根本 栄夫(平道院)  
鈴木 賢一(福島瀬上道院)  
関根 弘(茨城三和道院)  
古谷野 好栄(つくば花畑道院)  
上西 貴博(太田西道院)  
梶谷 憲皇(さいたま桜道院)  
小暮 紘一郎(秩父道院)  
佐々木 毅(東武大宮道院)  
川畑 修一(埼玉川島道院)  
鈴木 正輝(所沢竜王道院)  
岡本 光弘(埼玉狭山南道院)  
菊池 厚(埼玉越谷道院)  
飯島 博(埼玉西狭山道院)  
寺島 隆(埼玉北鴻巣道院)  
富澤 則夫(埼玉本庄道院)  
尾崎 安展(千葉茂原道院)  
分藤 秀明(杉並永福道院)  
尾山 稔(東京東小岩道院)  
松熊 俊和(東京深川道院)  
千葉 利貴(千駄ヶ谷道院)  
平林 純一(東京千代田道院)  
安倍 浩正(中板橋道院)  
北島 季彦(日野桜道院)  
林 准哉(東京王子道院)

中村 清恭(東京東陽町道院)  
小林 修(渋谷南道院)  
山口 仁(小田原道院)  
中川 貴司(川崎西道院)  
後藤 多加夫(南秦野道院)  
諸星 敏廣(厚木南道院)  
和栗 研一郎(藤沢東道院)  
前野 美則(高岡古城道院)  
加藤 善成(金沢卯辰山道院)  
新谷 成智(金沢東道院)  
松田 典夫(あわら東道院)  
関 英明(長野戸狩道院)  
松原 光孝(大垣道院)  
伊藤 信雄(各務原道院)  
篠田 貢一(岐阜白山道院)  
石川 光彦(碧南南道院)  
丹羽 文秀(名古屋広路道院)  
古西 眞二(豊橋芦原道院)  
岩本 剛(滋賀皇子山道院)  
岡部 弘志(大津坂本道院)  
若林 寿一(甲賀甲南道院)  
樋口 和宏(東大阪孔舎衛道院)  
沢良木 茂(大阪摂津和道院)  
相馬 康伸(泉北鴨谷道院)  
森迫 剛(茨木東奈良道院)  
繁内 一之(茨木西道院)  
三角 進弥(尼崎潮江道院)  
田中 猛(山陽網干道院)  
渡辺 昭彦(西宮今津道院)  
松野 剛(播州志方道院)  
嶋澤 義文(播磨新宮道院)  
浦林 涉(加古川神野道院)  
新田 福音(淡路中部道院)  
黒田 剛(尼崎西武道院)  
是常 健太郎(西脇南道院)  
村田 素彦(加古川米田道院)

八木 康光(神戸東道院)  
大内 信弥(高砂道院)  
立花 正夫(大久保山手道院)  
橘 満(神戸垂水道院)  
藤山 武彦(奈良斑鳩道院)  
宮本 富博(生駒北道院)  
奥田 眞弓(大和桜井道院)  
東浦 寿成(奈良宝来道院)  
影山 純一(安来十神道院)  
高下 勝良(岡山新見道院)  
藤岡 操(広島矢野道院)  
菅田 尚紀(広島西条道院)  
倍地 弘憲(山口北道院)  
藤井 郁英(上宇部道院)  
國富 佑治(本部道院)  
酒村 幸男(泉川道院)  
村上 眞啓(三島石床道院)  
山本 忠生(筑前古賀道院)  
竹熊 浩一郎(八幡永犬丸道院)  
西田 智宏(大野城大和道院)  
中牟田 佳登(筑紫野桜道院)  
秀島 和海(佐賀有田道院)  
貞松 茂(佐賀中部道院)  
松田 輝昭(佐賀小城道院)  
高橋 正義(長崎多良見道院)  
才津 行弘(大村三城道院)  
濱崎 慎太郎(熊本横島道院)  
黒石 和浩(荒尾小岱道院)  
木村 俊介(八代白鷺道院)  
穴井 俊一(玖珠道院)  
杉田 幸治(湯布院道院)  
清水 正男(大分明治明野道院)  
下野 幸夫(薩摩山崎道院)  
山本 久雄(鹿児島川内北道院)  
横山 春一郎(鹿児島霧島道院)  
島袋 容子(那覇北道院)

### 中導師

■2020年9月1日付

石井 孝一(三田南道院)

■2020年10月1日付

内田 真悟(所沢竜王道院)

■2020年11月14日付

岡村 敏弘(札幌手稲道院)

本間 仁(札幌もいわ道院)

佐藤 正行(札幌あかしや道院)

鈴木 彰(青森南道院)

重茂 雅宏(盛岡仁王道院)

菊間 誠(渋川道院)

柳岡 文隆(群馬前橋道院)

渡辺 芳雄(埼玉中部道院)

吉田 晴一(東松山道院)

岡本 幹夫(東松山道院)

齋藤 文宏(埼玉白岡道院)

山口 博之(埼玉行田道院)

山本 隆一(杉並永福道院)

重富 朝暉(杉並永福道院)

吉川 雅庸(東京大崎道院)

岸田 真(東京府中道院)

木全 英貴(東京飛鳥道院)

日置 隆司(東京飛鳥道院)

三好 広高(横浜片倉道院)

篠原 瑠璃音(川崎稲田道院)

伊藤 六美(各務原道院)

小峰 悟(清水袖師道院)

小峰 弘文(清水袖師道院)

佐野 弘美(富士北道院)

秋月 忍(名東道院)

林 真弘(川西南道院)

麻本 浩司(愛知蟹江道院)

西田 博昭(木津道院)

岩城 潤也(東吉野道院)

永田 敦子(箕島道院)

内藤 大将(本部道院)

## お布施

### 達磨祭

▷山崎 高雄 50,000円  
▷香川県少林寺拳法連盟 30,000円  
▷香川県教区 20,000円  
▷高松木太道院 鎌田 智 10,000円  
▷高松中央道院 田村 道明 5,000円

### 布施

▷奈良中央道院 駒井 勲 30,000円  
▷倉敷北道院 多賀 俊幸 30,000円  
▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円  
▷四国家のお宝 参加者 5,000円  
▷川崎稲田道院 篠原 瑠璃音 5,000円

▷石川 正彰 3,000円  
公認講習会  
▷静岡県教区 30,000円  
▷奈良県教区 30,000円

## 訃報

まつき たけみ 松木 長貴 元・鷲沼道院(現・横浜都筑道院)道院長、第223期生、少法師大範士九段、2020年9月25日逝去、満89歳

まつだ きんいちろう 松田 欣一郎 元・山ノ手道院道院長、第148期生、大導師大範士八段、2020年10月5日逝去、満89歳

こいけ しゅういち 小池 修一 東京試衛館道院道院長、第230期生、大導師正範士八段、2020年10月29日逝去、満71歳

編集後記▶2021年。新しい年の幕開けです。読者すべての方のご健康とご健勝を心より祈念申し上げます。▶2021年の干支「辛丑」は、十干が「辛」で、十二支が「丑」です。「辛」は、思い悩みながら、ゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味します。また、「丑」は、発芽直前の曲がった芽が種子の殻を破ろうとしている状態で、新しい命の息吹を表しています。また、「牛(丑)」は古くから農業で人々の力となってきたことから、粘り強さと誠実さが特徴といわれています。つまり、「辛丑」とは、「辛」で思い悩みながら衰退しつつも、「丑」で新しい生命の息吹が生まれるという意味なのです。何だか、今のコロナ禍におけるメッセージ性を感じえずにはいられませんね。▶こどもも私たち一人一人が、粘り強く、誠実に、勤勉に一日一日を過ごしていこうではありませんか。そして、「新化」の年にしようではありませんか。合掌(い)

表紙▶三野智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺公式サイト▶

<https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/> 管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

●お詫びと訂正  
73号(前号)「インフォメーション/認証」で間違いがありました。「交代/鈴木大志(浜北道院)」の認証日は2020年8月1日です。関係者ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫びいたします。

金剛禅

検索

あ・うん | vol. 74

金剛禅総本山少林寺広報誌

2021年1月1日発行

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<https://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：飯野貴嗣

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出ください。

TEL.0877-33-1010

e-mail : [aun@shorinjikempo.or.jp](mailto:aun@shorinjikempo.or.jp)

いち ご いち え  
一期一笑



イラスト/大原由軌子

静岡県教区事務局長 藤森正和

## コロナに負けない!

11月15日、「2020年度静岡県教区第4回金剛禅易筋行大会」を開催しました。

開催にあたっては、コロナ禍にあり慎重な意見もありましたが、「ウィズコロナは当然続く。逃げずに、できるかぎりのことはやろう」という道院長・支部長の強い思いを寄せて開催する運びとなりました。

もちろんのことですが、感染防止対策は徹底しました。

参加者は、13道院2支部から82名、幼稚園~75歳のまさに老若男女が集い、終始厳粛な中にもほのほとした雰囲気の中で無事(け)がや感染者もなく(け)行うことができました。

その背景に、道院長・支部長の活躍と役割以上の努力、関係者の協力があってこそその成功でした。

特筆すべきことは、「法座」において、拳士

たちの率直な意見交換が活発に行われたことです。その様子には、道院長になって忘れていた大切なことを思い出させてくれました。

また参加者は、他の道院・支部の活動を知ることにより、大いに刺激を受けているのも印象的でした。

横のつながりを築ききっかけにもなりました。やはり、仲間が集うことはとても大切なことです。

開催を通して、コロナ禍の不安より、少林寺拳法が大好きという熱い思いが成功の素であったと確信します。

【プログラム】

「易筋行1」道院紹介と演武・寸劇などの発表  
「易筋行2」コロナ禍におけるの修練方法の提案  
「法座」題：道院自慢・楽しい道院ってどんな道院

道院

投稿大募集 道場や拳士のちょっとしたいい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : [aun@shorinjikempo.or.jp](mailto:aun@shorinjikempo.or.jp)



## 宗門の行としての少林寺拳法

# 繰り返しの中から法を学ぶ

修練では、法形を覚えることから始めるため、形を正すことに捕らわれがちである。しかし、実際には体格や力の強さ、呼吸や間合いが人それぞれ異なるため、修練相手に応じて変化できるようにならなければ、法形としての価値は薄れてしまう。できるかぎり多くの相手と手を取り、数をかけ、法にかなう動きに仕上げていくから法形たりうるのである。



## 龍王拳 突抜(両手)

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで動画をご覧いただけます。

文／富田雅志 演武者／飯野貴嗣 准範士七段・中川 純 正範士七段